

家政学部建築・デザイン学科3年生による

ワークショップ型演習「建築&デザイン総合演習」による神保町を舞台とした地域連携プロジェクト

建築&デザイン総合演習について

建築・デザイン学科を構成する建築コースとデザインコースの2コース、さらに建築コースの建築分野・インテリア分野・まちづくり分野、デザインコースのグラフィック分野・プロダクト分野の計5分野の学部3年生が垣根を越えて、横断的に繋ぐチームを編成し、互いに競い合いながら、「空間」と「モノ」を対象として、リアルな社会課題に対して提案を行い、作品を制作するのがこの演習です。よって学科の全教員が指導にあたります。

毎年「神保町を元気にする」をテーマに、各チームで神保町を調査し、必要な空間・機能・モノを抽出し具体的な空間とそこで必要な家具やサイン等をトータルに計画し、創造・提案することを行っております。

毎年、最終講評会には地元の方々をお招きして様々なご意見をいただいております。昨年度からはコロナ禍ということもあり、オンラインでの講評会となりました。

今年度のこの演習では次の2つの課題を設定し、学生が選択する形式を採用しております。

ひとつは「じんぼうちょうの住処（すみか）計画」と題した、さくら通りにじんぼうちょうと学生たちが、家をまちに開く「いえ開き」をするという前提のもとにさくら通りの敷地を用いて、原則、1階がじんぼうちょうの活動場所（まちとの接点）、2階以上には神保町とじんぼうちょうを愛する人たちが（学生）が住むシェアハウスを計画します。

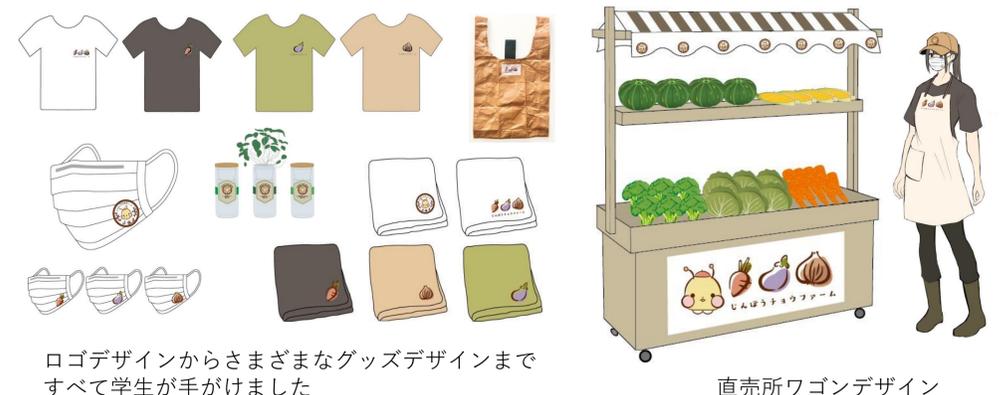
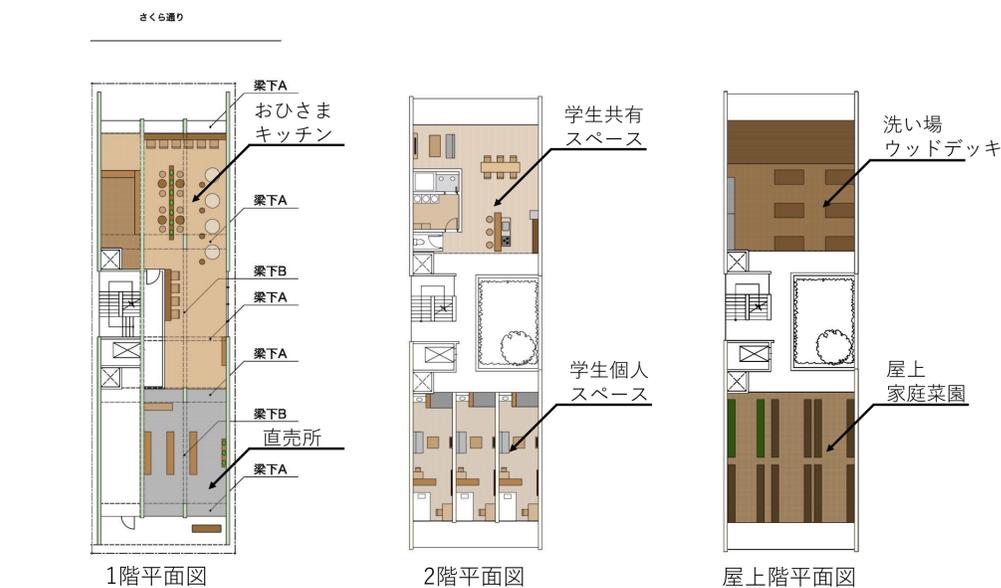
もうひとつは「じんぼうちょう改修プロジェクト」と題し、じんぼうちょうの7年間のキズを修復すること、頭部の軽量化や全体補強、衣装をリニューアルを行うと共に、じんぼうちょうの認知度&好感度をよりアップさせるためのグッズ製作を行いました。

これらの課題を2.5ヶ月でアウトプットまで作成する非常にハードなスケジュールの中、学生たちは後期毎週土曜日の限られた時間で作業を行ってきました。

課題1：じんぼうちょうの住処（すみか）計画



今回、学生たちはさくら通りに面した細長い敷地に、神保町では珍しい最上階を家庭菜園とすることで、1階におひさまキッチンと名付けた食堂やカフェ、野菜の直売場を設け、じんぼうちょうちゃんが店長となり、直売所や収穫祭に顔を出すことで、じんぼうちょうちゃんの認知度アップを図ります。また2階～7階を共立生のシェアハウスとし、月に一度、学生たちが企画した収穫祭を行うことで、地域の人たちとの交流の場となります。



課題2：じんぼうちょう改修プロジェクト

昨年度に引き続き、じんぼうちょうちゃん修復する作業とグッズ製作を行ったのが、こちらの課題チームとなります。



スタイロフォームを削る 発泡ウレタンを盛る 穴を埋める ジェッソと絵具で下地塗り



布で覆う 貼り付け

じんぼうちょうちゃんの頭部制作過程です。この修復は時間のかかる作業でした。頭部は軽量化や顔のパーツの改善、布地の貼り替えを行い、胴体もパーツの素材変更やデザインの見直しを行いながら軽量化を図ります。



じんぼうちょうちゃんのグッズ製作は様々な観点から検討した結果、「実写グッズ」「お菓子」「のぼり」の3つに選定、実際に制作しました。



じんぼうちょうオリジナルパッケージのガムを制作



じんぼうちょうのぼり 話題性や注目度アップを狙うためのデザイン

